

1. 学校名 対象 (学年、人数)

信州大学教育学部附属松本中学校 1年生 生徒40名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

地域と世界と繋ぐ ～協力・絆・個性・環境～

(2) 目 標

身近な地域の特色や魅力、世界の現状について調べたり、ひとと交流したりすることを通して、地域や世界の課題に対して自分たちにできることを考え、社会の創造に向けて行動していく。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)        | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)           | <input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)                  |
| <input type="checkbox"/> その他 ( )                          |  |

②育成する資質・能力

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力                | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力    |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力         | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度   |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力           |   |

(4) 関連する SDGs



- 2 飢餓をゼロに  
12 つくる責任、つかう責任  
16 平和と公正をすべての人に

(5) 探究課題・活動実践の概要

フェアトレードチョコレートやフードロス、地域の特産品に着目した「国際理解・町づくり」の実践

3. 流れ (指導計画の概略)

- ① 3年間の総合的な学習における理念 (大切にしたいこと) を決定する。  
「協力」「絆」「個性」「環境」に決定する。3年間の総合的な学習において、友と協力し、個性を發揮させながら、環境について考え広げていく時間にしたいと願いをもつ。
- ② 夏休み中に自分の興味のあることを実際に活動してみて、クラスに伝える。
- ③ 実際に行った活動の共通点をもとに分類し、グループを決めだし活動を行う。  
「世界・環境・ボランティア・松本漆器・飴・りんご・ネクタリン」の8つのグループに決定する。
- ④ グループに分かれて行ってきた活動や実践を、プレゼンし合い共有する。

4. 効果・反応・所感

本校では、「自らの内に問いを立て、主体的に探究していく総合的な学習の時間」をテーマに学習を行っている。1学年では9月に行われた志賀高原体験学習において、ユネスコエコパークやSDGsに関する学習を行ってきた。また、社会科の学習において、世界の国々についての学習を行った。その結果、環境や世界に関する興味や関心をもち、夏休みの実践では、フードロスや世界の文化、フェアトレードなどに関する活動が多かった。そこから、世界グループでは、フェアトレード商品に関心をもち、実際に売られている百貨店に行き値段の高さや品揃えの少なさを実感したり、フェアトレ

ードチョコレートを使った世界のお菓子作りを行ったりした。環境グループでは、家庭から出る食品の多くがフードロスにつながっていることに関心をもち、市役所の方やフードバンク信州の方を学校へ招き、フードロスの現状や中学生ができることについてお話を聞いた。1年間の活動を行ってきた2つのグループの生徒の感想を以下に紹介する。

<世界グループ>

フェアトレード商品と普通の商品の違いを調べたり、お店での取り組みを知ったりなど、フェアトレードについての活動を頑張った。普通のチョコレートでは、値段や書き方、置き場所などと違うことがたくさんあった。百貨店では、他に回ったスーパーやコンビニよりも多くの種類がゴールドゾーンに注目する商品としてフェアトレードチョコレートが置いてあった。来年はもっと踏み込んで、チョコレート以外の商品を調べたり、産地の人はどのようなことを思っているか、どんな生活をしているのかも調べたり知ったりしてみたい。

<環境グループ>

環境グループは他のグループと比べ学校外に出て活動することはなかったけれど、フードバンク信州さんとお話させていただいて成長することができたと思う。フードバンク信州さんのお話をお聞きして、自分が思っているよりも環境問題のことを考えた活動がたくさんあって、自分が感じているよりも環境問題のことを考えていなかったことがわかった。正直すごくショックだったけれど口で言うだけで自分は地球によいことをしっかりできていなかったと反省することができたからよかったし、そのおかげで環境問題のための活動を知ることができて自分達これからどんな活動をすればよいかも明確にできたと思うから成長できたと思う。

今後は、自分たちで活動を決めだし、活動の魅力を共有し合いながら、生徒の思いや願いを尊重して来年度の方向性を吟味することを大切にしていきたい。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

- ①フェアトレードチョコレート、防災パン
- ②フェアトレードチョコレートを販売している百貨店、フードバンク信州の方々